

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 9 月 18 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
インドネシア、スラウェシ島、ゴロンタロ州、ナントゥ森林地帯
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
インドネシア、スラウェシ島の塩場での環境 DNA による哺乳類生息相調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 9 月 12 日 ~ 平成 29 年 9 月 18 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
ボゴール農科大学講師、Bambang 博士
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>インドネシアのスラウェシ島には、本島のみが生息する固有哺乳類が知られており、研究が進められている。更に、バビルサやアノアといった固有種が集まるとされる塩場の存在が確認されていることから、周辺にカメラトラップ等を仕掛け、生息情報が得られてきている。この塩場はウェットタイプ(水たまり型)であることから、環境 DNA での調査に適しており、本研究では、そういった塩場から水を採水し、環境 DNA の解析を行うことで、そういった希少種の生息状況や集団遺伝研究へ応用することを目的とする。本出張では、東京農業大学教授の松林尚司博士と、琉球大学研究員の中林雅博士が同行し、両名の指導の下、調査を行った。</p> <p>調査は3日間で、ナントゥ森林地帯にある2箇所の塩場を対象に行われた。ナントゥ森林地帯では、ボゴール農科大学の Bambang 博士に協力いただき、タドゥラク大学の Fahr i 博士とボゴール農科大学の学生の Ahmad さんと共に調査を実施した。2箇所の塩場のうち1箇所では、初日に赤外線センサーを塩場の入口に設置した上で、2日目、3日目の2回にわたり水の採水を行うことができた。カメラは3日目の採水時に回収しており、環境 DNA 解析の結果と照合する予定である。もう一方の塩場では3日目に1回のみ採水を行った。</p> <p>カメラを設置した塩場においては、複数回においてバビルサが水を飲みに来ている場面を目撃していることから、環境 DNA 中にも多くのバビルサ由来 DNA が含まれていることが期待される。</p> <p>今回得られたサンプルは後日千葉県立中央博物館において DNA 抽出を行い、京都大学内でシーケンス及び解析を実施予定である。</p>

巨大な板根を持つ木

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



塩場とそこを訪問するバビルサ



周囲ではクロザルやイノシシの姿も観察できた

6. その他 (特記事項など)

本調査は PWS ほか GET-Bio の支援を受けて行われました。